

C-15 パイピング加工と布地のストレス吸収能力について

戸板女短大 ○香取智恵子 石井千加子

目的 パイピング加工に際して生ずるしわは一見パッカリングに似た状態を示すが、液状の変形の方角性からこの発生原因は、縫製方向の表裏のずれのストレスの介在によると考えられる。この場合のずれのストレスに対する布地の吸収能力を調査した。

方法 パイピング加工に近い状態に布地を固定し、折り返した表裏にずれを与えて、降伏変形が生ずるまでのずれ量を測定し、布地のずれ量の吸収能力を評価した。又その結果と実際の縫製加工時のしわの発生を対比した。

結果 上記の吸収能力は、布地により差があり、パイピング加工への適否が明らかにされた。

実際の縫製加工では、加工後の放置時間によるクリープの現象でしわの減少が認められる。又バイアス布を伸してから縫製に入ることが行われるが、これはストレス吸収能力を使い尽してから加工に入ることになり、一般仕上がりの状態では不利となることが明らかとなった。